

狂言の稽古 開始です (NO.3)

10月12日(木)の3校時から、6年生が、『附子』と『柿山伏』についてそれぞれ山口先生からご指導をいただきました。子どもたちは真剣そのものです。山口先生がアドバイスしてくださると、子どもたちも精一杯応えようとしているのが、よくわかりました。ふだんの子どもの声よりも、声に張りがありました。よく頑張っています。



「そりゃ退け、そりゃ退け」「何とした、何とした」は、怖いものに近づいている感じを出しましょう。間を上手く使しましょう。

怖さよりも興味の方が勝っている感じを表現しましょう。
セリフはゆっくりと言います。言葉は意味を持っています。
突然4の場面が来たわけではありません。こわい場面が、ちょっとずつちょっとずつ薄れていって、美味そうなものにたどり着いたのです。それを表現しましょう。



よく声が出ています。目線をそらさず、伝えるべき相手にきちんと言葉を伝えることが大切です。

相手を説得する時は、ゆっくりと話しましょう。 まだまだ原石だが、おもしろい！セリフを覚える前に、恥ずかしさを捨てましょう。



喉を閉めないように読みましょう。声の届き方が変わります。
太郎冠者は、いたずら心を出しましょう。
感情をセリフにのせましょう。



遠くに言葉を届けましょう。言葉をどこに届けるかを意識しましょう。ゆっくり話しましょう。
※がらりん・・・物が割れる音を表す
チーン・・・何かに当たった音を表す
いたずらを楽しむ心でセリフを言いましょう。
2人そろって声を出す場面が多いですが、**相手を見なくても、相手の気配で、相手の息を感じながら合わせるようにしましょう。**



力強くウソ泣きをしましょう。「え」と「へ」の間の発声で泣き声を表現しましょう。
狂言の基本は、言葉で伝えることです。セリフ回しを大事にしてください。

口をしっかりと開けて発声をしましょう。どこに向かって声を発しているかを考えましょう。

セリフをしっかり言う、それが観客に伝わった時、観客から反応が返ってきます。自分の発した言葉を観客が受け取って返してくれる経験をしてほしいです。自分がアクションを起こさないと、自分には何も返ってこないという経験をしてほしい。

